

戸田地区小中一貫学校基本計画

沼津市教育委員会

平成30年12月

はじめに

本市では、今後における教育の方向性を明確に示し、教育施策を総合的に進めていくための指針として沼津市教育基本構想を策定し、「明日の社会を担う『夢ある人』づくり」を目的とした様々な施策を実施しています。

全国的に少子高齢化が進む中、沼津市教育委員会は、平成29年度に「沼津市立小・中学校の適正規模・適正配置の基本方針」を策定し、よりよい教育環境の整備や教育の質の更なる充実を図るために学校規模・学校配置の適正化に取り組んでいます。

平成15年度から18年度まで、第五中学校区では、静岡県教育委員会及び文部科学省の指定を受け小中連携の研究を推進し、平成26年4月には、新設の施設一体型としては県内初となる静浦小中一貫学校を開校し、小中一貫教育を進めています。そして、平成31年4月からは、市立高校中等部を除く市内の全小中学校が「中学校併設型小学校・小学校併設型中学校」になり、既存の小中学校の枠組みは残したまま、義務教育9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施していきます。

戸田地区においては、小中学校ともに全学年単学級であり、児童生徒数の減少が見込まれ、地理的要因や地域事情を考慮しつつ、一定の集団規模の確保及び教育の質の維持・向上を図っていく必要がありました。そこで、平成28年度、戸田小学校と戸田中学校とを施設一体型小中一貫学校として整備することにより、戸田地区の学校規模や学校配置の適正化を図るために、「戸田地区小中一貫校推進委員会」を設置し、具体的な方向性についての協議を進めているところです。

本基本方針は、推進委員会での御意見や、学校現場の声等を踏まえ、次の3点を、その基本コンセプトとしています。

1 「学力の保証」

義務教育9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施し、子どもたちが小中学校の9年間で学ぶ内容を捉えた指導、少人数を生かしたきめ細かな指導を通して、子どもたちの学力を保証します。

2 「コミュニケーション能力の向上」

異年齢交流の活性化、言葉を大切にした学び、他校との交流、地域との関わりを通じ、コミュニケーション能力を伸ばし、自己有用感を育みます。

3 「地域を愛する心の醸成」

戸田の人・自然・文化・産業等を生かした豊かな体験活動を通じ、地域を愛する心を育みます。

この基本コンセプトの下、目指す子どもの姿を学校・家庭・地域が共有し、子どもたちの健やかな成長を目指します。

目 次

I	戸田地区小中一貫学校のねらい	1
II	基本コンセプト	2
III	基本プラン	
1	学力の保証	
(1)	9年間の系統性・一貫性を大切にした小中一貫教育	3
(2)	一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導	5
(3)	ICT※を活用した教育	6
2	コミュニケーション能力の向上	
(1)	異年齢交流の活性化	7
(2)	言葉を大切にした学び	8
(3)	他校との交流・地域との関わり	9
3	地域を愛する心の醸成	
(1)	「ふるさと戸田」から学ぶ活動	10
(2)	地域とのつながりの中で学ぶ活動	11
(3)	系統性のある体験学習	12
IV	施設整備に関する基本方針	
1	施設整備に関する基本的な考え方	13
2	施設整備の主な方針	13

※ ICT…Information and Communication Technology の略

コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報コミュニケーション技術のこと。

[平成22年10月「教育の情報化に関する手引」文部科学省]

I 戸田地区小中一貫学校のねらい

戸田地区小中一貫学校は、「沼津市教育基本構想」「沼津市立小・中学校の適正規模・適正配置の基本方針」に基づき、9年間の系統的な教育課程を編成・実施する小中一貫教育を推進していくことにより、子どもたちにとってよりよい教育環境の整備、教育の質の更なる充実を図ります。

<沼津市が目指す学校教育>

沼津のよさを生かしながら、言葉を大切にして豊かな感性・豊かな知性・健やかな心身を自ら身に付けることや、人と人が互いに学び合うことなどを通して大きな志やビジョンを持つ「夢ある人」を育てます。

<戸田地区小中一貫学校のねらい>

① 「学力の保証」

義務教育9年間を見通した教育課程[※]を編成・実施し、9年間の系統性や一貫性を大切にした指導、一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導、ICTを活用した教育を通じ、子どもたちの学力を伸ばします。

② 「コミュニケーション能力の向上」

異年齢交流の活性化、言葉を大切にした学び、他校との交流、地域との関わりを通じ、コミュニケーション能力を伸ばし、自己有用感を育みます。

③ 「地域を愛する心の醸成」

「ふるさと戸田」から学ぶ活動、地域とのつながりの中で学ぶ活動、将来へつながる活動を通じ、地域を愛する心や地域のために行動する態度を育みます。

<目指す子どもの姿>

- ◎ 9年間で確かな学力を身に付け、広い視野とともに自分に自信を持ち、目標に向かって努力することができる
- ◎ 積極的に人と関わろうとする態度を育むとともに、自分のよさと周りの人のよさに気づき、自分も相手も大切にすることができる
- ◎ 戸田の人・自然・文化・産業等について深く理解し、「ふるさと戸田」を誇りに思い、大切にしていこうとする

※ 教育課程… 学校教育の目的や目標を達成するための授業や行事等の総合的な教育計画

明日の社会を担う「夢ある人」づくり

～戸田地区小中一貫学校における取組～

1 学力の保証

- (1) 9年間の系統性・一貫性を大切にした小中一貫教育
- (2) 一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導
- (3) ICTを活用した教育

2 コミュニケーション能力の向上

- (1) 異年齢交流の活性化
- (2) 言葉を大切にした学び
- (3) 他校との交流・地域との関わり

3 地域を愛する心の醸成

- (1) 「ふるさと戸田」から学ぶ活動
- (2) 地域とのつながりの中で学ぶ活動
- (3) 系統性のある体験学習

Ⅲ 基本プラン

1 学力の保証

(1) 9年間の系統性・一貫性を大切にした小中一貫教育

- ① 9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施し、知・徳・体をバランスよく育みます。
- ② 各教科等で育む資質・能力を明確にし、9年間の系統性を大切にした授業を実施します。
- ③ 教職員の子ども観・授業観・指導方法など、一貫性を大切にした指導を行います。

ア 9年間の系統性を確保した教育課程の編成・実施

施設一体型小中一貫学校であることのメリットを生かし、子どもの育ち（発達段階や学習内容、学習方法）に即して、学年段階の区切りを4－3－2制とします。また、義務教育9年間のゴールを見据えた目標や具体的な子どもの学びの姿を全教員で共有し、系統性を確保した教育課程を編成・実施します。9年間で目指す子どもの姿を明確にし、児童生徒の学習状況や地域の実態等を踏まえた上で、一人一人に最適な支援を行います。

イ 「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の育成

基礎的な知識及び技能、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を、9年間を通して養います。

道徳教育は、特別の教科道徳における問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を要として学校の教育活動全体を通して行い、道徳性の育成及び指導の重点化を図ります。

体育・健康に関する指導は学校の教育活動全体を通して適切に行い、生涯を通して健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培います。

ウ 各教科における縦のつながりを大切にした授業の実施

各教科等で育む資質・能力を明確にし、9年間の系統性を大切にした指導計画に基づいた授業を実施します。例えば、「5年生で今学んでいるこの内容は、8年生で学ぶ内容に繋がるので、ここではこのような力を確実に身に付けておく必要がある」「9年生で今ある姿は、4年生のこの場所ですみずくからであり、そのことを踏まえた指導をしなければならない」というようなことを教師が押さえて授業を行います。また、子どもたちにもその大切さを伝えるなどして、全ての教員が、9年間の学習内容の全体像を把握し、系統性や連続性を考慮した指導をすることで、子どもたちの学ぶ意欲を高めます。

エ 一貫性を大切にした指導

9年間の連続したカリキュラムや4-3-2制の学年段階の区切りのもと、全ての教員が子ども観や授業観、指導方法を共有し、一貫した指導を行います。このことにより、教員や学年が変わっても子どもたちが戸惑うことなく学習に取り組めるようにします。また、施設一体型小中一貫学校であることのメリットを生かして、小学校段階から段階的な教科担任制を導入し、より専門性の高い授業を実施することで、学力の向上を目指します。

オ 施設一体型小中一貫学校の特色を生かした行事等の設定

9年間で目指す子どもの姿を明確にした上で、異学年集団の交流や合同授業、9学年で取り組む学校行事を設定するとともに、日常的な異年齢交流により、児童生徒の社会性の向上を図ります。

また、教科横断的な視点を持ち、地域の人的・物的資源を活用しながら教育課程を編成・実施し、評価して改善を図ります。

入学式や卒業式、修学旅行などの行事については、施設一体型小中一貫学校の特色を生かした形になるようにし、そのねらいを達成できるようにします。

(2) 一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導

- ① 一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を把握し、補充指導や個別指導、繰り返しの学習等を行い、学力の向上を目指します。
- ② 複式学級※においては、教科や活動内容によって学習集団を工夫し、デメリットの解消に努めるとともに、学力の維持向上を目指します。
- ③ 一人一人の興味・関心を大切にし、学習意欲の向上を図るとともに、知的好奇心や探究心を育みます。

ア 個に応じた指導

少人数であることよさを最大限に生かし、子どもたちの学習状況に応じて個別指導をはじめとした様々なアプローチをしていきます。また、施設一体型小中一貫学校であることのメリットを生かし、全教職員が一人一人の学習に関する情報共有を日常的に行うことで、一人一人を大切にされた適切な指導につなげ、学力の向上を支えます。

イ 複式学級への対応

複式学級においては、施設一体型小中一貫学校であることのメリットを生かし、教科や単元、活動内容などにより単独の学年で授業を行ったり、活動の制限解消や多様な考えに触れるために複数の学年で授業を行ったりします。このことにより、デメリットの解消に努め、学力の維持向上を目指します。

ウ 主体的な学習

一人一人の興味・関心を生かした学習を展開し、自ら問題を発見・解決する授業を行うことで、主体的に学習に取り組む意欲を高めます。

※ 複式学級…児童生徒数が著しく少ない場合において、2以上の学年の児童生徒を1学級に編制している学級。静岡県の場合、2以上の学年の合計が14人以下（1年生を含む場合は別基準）で複式学級を編制する。複式学級では、相互に学び合う姿や自主性、協調性の伸長などが期待できる一方、多様な考えに触れる機会が少ないことや狭い人間関係により切磋琢磨する機会が減少すること、1人の教師が複数の学年の指導を行うため直接指導の時間が減ること、教員に特別な指導技術が求められ負担が大きいことなど、課題もある。

(3) ICTを活用した教育

- ① ICTの特長を生かした授業等を実施することにより、学習活動の充実を目指します。
- ② 子どもたちが多様な意見や考え方に触れたり、より多くの人数で共に学習する経験をしたりするためにICTを活用します。

ア 学習内容のより深い理解のための活用

日々の授業の中で、積極的にICTを活用し、その強みを生かすことで、子どもたちの意欲を引き出し、主体的・対話的で深い学びを支える情報活用能力を育成していきます。

情報の収集・選択をする場面や、比較・整理をする場面、思考を深める場面、文章や図表にまとめたり表現したりする場面、繰り返し学習により知識の定着や技能の習熟を行う場面等で効果的にICTを活用することによって、学習内容のより深い理解を促すとともに知識の定着を図り、学力の向上を目指します。

イ 多様な意見や考えに触れるための活用

タブレット端末や校内ネットワーク、大型提示装置などを活用して情報共有を行い、これまで以上に効果的な協働的問題解決を行っていきます。

また、インターネットを活用し、オンライン会議システムや協働学習支援ソフトなどを利用することにより、遠隔地の子どもたちと合同型授業や意見交換などを行い、積極的にコミュニケーションを進めていきます。交流の場を多く設けることにより、多様な意見や考えに触れたり表現の機会を広げたりし、思考の深まりや社会性の伸長を図り、少人数であることのデメリットを補っていきます。

2 コミュニケーション能力の向上

(1) 異年齢交流の活性化

- ① 「自分の考えを伝える」「相手の考えを聴く」場を多く設定し、思考力・判断力・表現力を育みます。
- ② 日常的な異年齢交流を活性化し、思いやりの心や自らの将来をイメージする力を育みます。

ア 異年齢交流の中で考えを伝え合う場面の設定

学年の枠を超えて活動する縦割り活動[※]を中心に、日常的な異年齢交流を促進します。

交流の際は、相手の学年に応じた適切な手段や表現、言葉、文章を用いるように意識し、自分の意見を分かりやすくはっきり言うとともに、相手の話をしっかり聴く必要があるような場面を設定します。

イ 思いやりの心や将来をイメージする力の育成

活動を通して、上級生は、下級生の憧れの対象になろうとする意識を育みます。また、下級生に対する思いやりの気持ちを高めていきます。

下級生は、上級生とともに活動する中で、近い将来の見通しや希望を持つことができるようにするとともに、自分が目標とする近い将来の姿を具体的にイメージしやすくなるようにします。

4－3－2制の各学年段階の区切り（学年団）における3回のリーダー経験により、思いやりの心を育むとともに、次の学年団への自信や進級・進学への意欲を高めます。

※ 縦割り活動・・・戸田幼稚園、戸田保育所、戸田小学校、戸田中学校で連携して行う交流活動

(2) 言葉を大切にした学び

- ① 9年間の「言語科※」により、読解力やコミュニケーション能力を育み、自信を持って表現する力を伸ばします。
- ② 各教科の授業において、子ども同士が自分の考えを伝え合う場を大切に、相手の考えを尊重する態度を養います。

ア 9年間の「言語科」によるコミュニケーション能力の育成

「読解の時間」では、言葉を用いて子ども同士が交流することを通して、論理的思考力や表現力を高めます。

「英語の時間」では、英語を用いて積極的にコミュニケーションを行う態度や、話す・聞く・読む・書くなどのコミュニケーション能力の基礎を養います。

イ 「言語科」と「総合的な学習の時間」の連携による情報を国際的に発信する能力の育成

「言語科」の「読解の時間」や「総合的な学習の時間」においては、戸田について図書や文献、地域からの聞き取り等から情報を収集・整理する能力を育てます。また、その情報を「言語科」の「英語の時間」において、外国人観光客に向けたパンフレット等の作成につなげ、実際に外国人を招き英語で観光案内が実施できるよう英語力を高めます。併せて地域の活性化に貢献する姿勢を育みます。

ウ 相手の考えを尊重する態度の育成

各教科の授業において、他者との対話を通して考えを明確にし、自己を表現し、他者を理解するなど互いの存在について理解を深め、尊重していくようにしていきます。例えば、問題に対する自分の考えを子ども同士で対話しながら解決していくことを重視したり、特別の教科道德の時間に様々な考え方に触れたりすることを通して、相手の考えを尊重する態度を育みます。

※ 言語科…平成18年に文部科学省の教育課程特例校の認定を受けて設置した沼津市独自の教科で、「読解の時間」と「英語の時間」で構成している。

(3) 他校との交流・地域との関わり

- ① 市内の学校をはじめ、市外や他地域の学校とも連携し、交流の機会を設けることで、子どもたちの人間関係を広げ、自信を育みます。
- ② 地域との関わりを通して、コミュニケーション能力を育てます。

ア 市内の他の学校の子どもたちと一緒に学ぶ活動

例えば、ICTを活用した授業交流や、部活動を通じた交流など、戸田地区以外の子どもと交流する機会を設け、多様な考えに触れるとともに人間関係形成能力を育み、自信を育てます。

イ 市外や他地域の子どもたちと一緒に学ぶ活動

長野県原村立原小学校との交流を継続し、それぞれの地域のよさを学んだり紹介し合ったりしながら人間関係形成能力を育みます。

積極的にICTを活用し、戸田のよさを発信したり、遠隔地と交流したりすることで、視野を広げ、コミュニケーション能力を高めます。

ウ 地域と積極的に関わる場の設定

9年間を通して、地域のひと・もの・ことと関わる機会を系統的に設定し、多様な生き方や考え方に触れるとともに、積極的に人と関わったり、新しいものを取り入れたりしようとする態度を育てます。

3 地域を愛する心の醸成

(1) 「ふるさと戸田」から学ぶ活動

戸田地区にある豊富な教育資源（人・自然・文化・産業等）を積極的に教育活動に取り入れます。

ア 豊富な教育資源から学ぶ活動

東南北を達磨山山系に囲まれ、西は駿河湾に面し、山海の幸と景観に恵まれた戸田地区の特性を生かした体験学習を行います。戸田塩作り、磯海苔かき、棚田における米作り、タカアシガニ放流、学校やゆめとびら舟山等を活用した校外体験学習、間伐体験等、多くの戸田地区の教育資源を利用した体験学習が可能です。これらの体験学習を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体得するとともに、自主的・自発的な学習を促進し、地域を愛する心や地域のために行動する態度を育みます。

イ 幼保小中の連携

戸田の宝である御浜を交流のシンボルとし、へだっこセンターに通う幼児を交えて、幼保小や幼保小中で交流を行います。その中心である「御浜交流」では、幼保小中で構成した縦割り班を用いて集会や打合せなどを行い、10年間[※]に渡り海岸美化活動を実施し、その後の多くの活動を幼保小中で連携していく意識を高めます。また、それ以外にも保育体験や読み聞かせ等を通して交流を深めます。幅広い年齢が一緒に活動をすることで、コミュニケーション能力の向上や自己肯定感を高めることにつながります。

※ 10年間…幼稚園年長から9年生までの10年間

(2) 地域とのつながりの中で学ぶ活動

- ① 地域の方の協力を得ながら学習の充実を図ります。
- ② 地域の行事等へ積極的に参加し、地域とのつながりを強めます。

ア 地域との協働

「読み聞かせ倶楽部・たちばな」の皆さんによる読み聞かせ活動をはじめ、学習支援ボランティアなどで学校内の教育活動に協力を得るほか、地域の方に学校外でも体験学習の場を提供していただき、子どもたちの学習を充実させます。

イ 地域の活動等への積極的な参加

大漁踊り、漁師踊り等による各祭典への参加や運営ボランティアとしての協力、災害発生に備えた地域防災訓練への参加等、積極的に地域の活動に取り組み、地域のために行動する態度を育みます。

(3) 系統性のある体験学習

「戸田大志学習」※の実施により、9年間を通して系統性のある様々な体験学習を実施します。

ア 地域学習・地域交流の実施

地域について学び、地域の人たちと関わり合うことで「ふるさと戸田」を愛する子どもを育てます。

また、発達の段階に応じて、地域とともに地域の将来について考え、地域と向き合い、地域とともに生きる自分を見つめることで、将来の姿を描くとともに、地域を愛する心情を育てます。

イ キャリア教育の推進

地域における職場体験、保育体験、デイサービスセンター訪問等をはじめとした体験学習の機会を設け、自分の将来や地域の未来について考えていきます。

また、高校訪問や、高校生による出前授業など、卒業後の具体的な進路について学ぶ機会も設定します。

※ 戸田大志学習…戸田小中における生活科と総合的な学習の時間を中心に行うキャリア教育
『大志を抱いて<夢>』『いざ大海へ<社会性>』『そして母港へ<郷土愛>』を活動の基本理念とし、9年間を通して系統性のある様々な体験学習を実施する。

IV 施設整備に関する基本方針

1 施設整備に関する基本的な考え方

子どもたちにとってよりよい教育環境を整備するとともに、教育の質の更なる充実を目指し、戸田小学校と戸田中学校を、9年間の系統的な教育課程を編成・実施する施設一体型小中一貫学校として整備します。

2 施設整備の主な方針

(1) 校舎

- ア 小中一貫学校の校舎として、現在の戸田小学校校舎を活用するため、長寿命化改修を実施するとともに必要な工事を実施します。
- イ 読書活動の充実をねらうとともに、日常的に全学年の子どもたちが交流しながら利用できるようにするために、学校図書館2室は学校種別ではなく、機能別（読書センター、学習センター）とします。
- ウ 異年齢交流を自然に行うことができる場として、多目的ホールを新設し、様々な行事や活動などで活用します。
- エ 全教職員が日常的に情報共有を行う場と機会を創出するために、職員室を学校種別ごとに設けるのではなく、小中で1つとします。
- オ 子どもをはじめ地域住民が津波から避難するための屋外避難階段を設置します。
- カ 校舎のトイレは、衛生面や利便性から洋式化及びドライ化を実施し、快適性を高めます。

(2) 体育館・プール

- ア 体育館は、現在の戸田中学校の体育館を使用します。
- イ プールは、これまでと同様に戸田B&G海洋センターを必要に応じて使用します。

(3) グラウンド

- ア 現在の戸田中学校のグラウンドをメイングラウンドとし、現在の戸田小学校のグラウンドは、サブグラウンド及び駐車場として使用します。

(4) 給食調理場

- ア 現在の給食調理場を改修して使用します。
- イ 効率性及び安全面・衛生面を考慮し、老朽化対策や施設のドライ化、設備の更新を行います。

(5) その他

- ア 児童生徒玄関は、安全性を考慮して、管理諸室やメイングラウンドに近い校舎東側に移動します。
- イ ICTが積極的かつ効率的に活用されるように、計画的に整備を進めます。

児童生徒数の推移

戸田小	2018 (H30)	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
1年生	9	6	5	4	3	5	2	3	3	4	4
2年生	7	7	6	5	4	3	5	2	3	3	4
3年生	16	7	7	6	5	4	3	5	2	3	3
4年生	8	15	7	7	5	4	4	3	5	2	3
5年生	19	8	15	6	7	5	4	3	3	4	2
6年生	14	18	7	15	6	6	5	4	3	3	4
小学校計	73	61	47	43	30	27	23	20	19	19	20
戸田中	2018 (H30)	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
1年生	15	13	17	6	13	5	5	4	3	3	3
2年生	11	15	13	17	6	13	5	5	4	3	3
3年生	16	11	15	13	17	6	13	5	5	4	3
中学校計	42	39	45	36	36	24	23	14	12	10	9
小中計	115	100	92	79	66	51	46	34	31	29	29

※地域まちづくり研究所の推計値（H29.3）を元に、2018（H30）は実数を反映、
2019（H31）～2024の小1は住民基本台帳（H30.11.1）を反映したもの